



## チャイルドラインこうち設立 10周年記念イベントを開催

2022年11月5日、サウスブリーズホテルにて『チャイルドラインこうち設立10周年記念講演会&パネルディスカッション』を開催しました。

コロナ禍で2年遅れての開催となりましたが、32人の方々に参加していただき、貴重な時間を共有することができました。



記念講演講師の太田久美さん

チャイルドラインこうちの10年の歩みの紹介の後、さいたまチャイルドライン代表理事の太田久美さんを講師に記念講演が行われました。

太田さんとこうちの関わり、NPOとしてのチャイルドラインが目指すべきもの、チャイルドラインが生まれた背景、子どもたちがおかれている社会の現状と続き、最後に子どもの話を聞く時のキーポイントで締められました。

中でも印象的だったお話は、NPOであるチャイルドラインの使命は「子どもの権利条約の理念に基づき、子どもの『声』を受けとめることで、子どもがありのまま安心できる心の居場所をつくること」。

そして、「受けとめた『声』を社会に発信し、子どもが生きやすい社会をめざすこと。そのためには、活動する人々に社会変革性や市民運動性の意識が必要だということ」。

「単なるサービスの提供ではなく、社会をより良くしていくという意識や市民の当事者性を発揮させようという

意識を持って取り組んでもらいたい。共通の目的のために集まり、その目的を達成するために活動し、なおかつ広めていくこと」が重要だと説かれたことです。

そして、「チャイルドラインにできることは、限られた出会いを通して、子どものSOSを受け止め、子どもの気持ちを聴くこと。違う価値観を提示しながら、子ども自身が本来持っている生きる力が湧き出すよう自己決定するためにサポートすることを繰り返すしかない。その姿勢を貫いて欲しい」と熱く語られました。



パネルディスカッション（左から本浄代表・太田さん・呉副代表）

パネルディスカッションでは、本浄代表、呉副代表も加わり、会場の参加者の意見もいただきながら、「生きづらい社会環境の中で、多様性を認めることがお互いの尊敬につながる」。

「ネガティブでも子どもたちがありのままに発信でき、それを受け入れられることは、トラウマやストレスがあってもあなたはあなたと受け入れてもらえたと安心感が生まれ、自己肯定感につながる。手を取り合ってやり続けることが大きな力になる」と締めくくられました。



## ご寄付のお礼 (2022年8月～12月)

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

### <企業・団体の皆様>

○高知よさこいライオンズクラブ 様	100,000 円	○谷岡内科小児科 様	10,000 円
○高知ライオンズクラブ 様	30,000 円	○佐竹小児科 様	10,000 円
○医療法人めばえ 様	10,000 円	○株式会社中島工務店 様	10,000 円
○食家「雅」様	6,000 円	(寄付つきメニューより/4～9月分)	

### <個人の皆様>

前田賢人 様 森下千枝 様 長尾佳樹 様 浜田義文 様 吉川清志 様 澤田由紀子 様  
増本徳 様 森畑東洋一 様 松崎淳子 様 中村ささみ 様 本浄謹士 様 ほか匿名 2名

### ◆会員数

(2023年1月1日現在)

活動会員 51人

支援会員 36人・団体

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様のご寄付等により成り立っています。今後ともよろしくお願いたします。



## 第9期受け手養成講座を開催

チャイルドラインこうちの新たな電話の受け手を増やすことを目的に、第9期受け手養成講座を開催しました。

この受け手養成講座は、コロナ禍で開催を見合わせていたことから、今回は3年ぶり9回目の開催となりました。

2022年8月21日から10月29日までの期間の計5日間、10のカリキュラムで受講いただきました。なお、講座のプログラムは、台風接近の影響等により一部変更して実施しています。

今回の講座は、33名に受講いただきました。この講座は、受け手となることを希望していなく、子どもに関する知識習得を目的とした受講者もおります。

受講者のうち14名が11月から1月の期間で直接電話を受けるインターン研修に進んでいます。インターン研修を修了した方は、チャイルドラインこうちの新たな受け手として共に活動していくこととなります。

また、活動会員20名も参加し、受講生と学びを共有し、交流しています。

※予定していた講座「子どもの性と生」は中止となったことから、今後の受け手継続研修で実施する予定です。

1回	出会いのワーク	チャイルドラインこうち研修部
2回	チャイルドラインとは	チャイルドラインこうち研修部
3回	高知県の子どもの育ちと現状 ～学校の現場から～	太平洋学園高等学校校長 光富 祥さん
4回	子どもの希死念慮	高知県立精神保健福祉センター 所長 山崎正雄さん
5回	発達障がい児の支援	チャイルドラインこうち代表理事 (J A 高知病院 小児科医師) 本淨 謙士
6回	傾聴のロールプレイ	海辺の杜ホスピタル 保健師 横本宏子さん
7回	自己分析・自己理解・ コミュニケーション力	チャイルドラインこうち監事 岡田一水
8回	過去・現在・未来 コミュニケーションスキル	チャイルドラインこうち研修部
9回	話の聴き方のスキルアップ	チャイルドラインこうち研修部
10回	受け手としての心得・実務	チャイルドラインこうち事務局

### 【受け手養成講座の概要】

1. 「チャイルドラインの目的や活動意義」を理解する。
2. 学校教員、医師から、子どもを取り巻く現状と課題、権利擁護、希死念慮、発達障害等を学ぶ。
3. 「子どもの気持ちを受け止める」ために、自己理解や電話での話の聴き方やコミュニケーションを学ぶ。

まさに目からうろこの内容ばかり。子どもたちを取り巻く環境など様々な事象を学び、たくさんのワークに参加するなかで、大人が変わらないとダメだと知りました。そしてチャイルドラインの活動意義と継続の必要性を知りました。

受け手としての活動は出来なくても、今の自分に何か出来ることはないだろうか？と、自分なりに考えるようになりました。「優しく暖かく包み込むように」安心感の中で、自分のままで大丈夫と後押ししてもらったような気がして、受講して本当に良かったと思っています。ありがとうございました。

いろいろな視点からの講座があり勉強になりました。ありがとうございました。

新たな学び、気づきがあって、受講して良かったです。

### 受講生の声

大変勉強になりました。開催者のご尽力に感謝致します。山崎先生と、光富校長のお話が1番心に残りました。

人には解っていても心の中では納得できないことがいっぱいあります。しかし、それはなかなか人には話せません。だからチャイルドラインがあり、一人に寄り添うことが大切だと感じました。

各分野の現場で実際に勤務されている先生方のお話が聴けて大変勉強になりました。チャイルドラインのスタッフの方々の、具体的な受け手ロールプレイングや、困った体験等を質問できたのも良かったです。「子どもの性と生」の講座が中止になり、受講できなかったのが唯一、残念でした。

## 中四国エリア24時間キャンペーンを実施

2022年8月28日(土)16時から9月4日(日)21時まで、中四国エリアでチャイルドラインを実施している10団体合同で24時間キャンペーンを実施しました。

この24時間キャンペーンは、子どもの悩みが多いと言われている学校の2学期開始前後の期間に1週間173時間連続で中四国エリア実施団体が連携して電話開設を行い、子どもの声を聴くものです。

チャイルドラインこうちも実施団体として、通常の開設日時の入れ替えを行い、キャンペーン期間中のうち3日間計12時間、延べ10人の受け手・支え手が参加して開設協力を行いました。

キャンペーン期間中、中四国エリア合計で198件の電話を受信しました。うち高知からは15件でした。

また、24時間キャンペーン用のチャイルドラインカードを作成し、学校を通じて子どもたちに配布しました。



子どもたちに配布したカード